

Title	物性研「稀薄合金におけるs-d相互作用」研究会
Author(s)	
Citation	物性研究 (1969), 11(5): 355-355
Issue Date	1969-02-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/86819">http://hdl.handle.net/2433/86819</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

## 物性研「稀薄合金における s-d 相互作用」研究会

近藤淳氏が s-d 相互作用の異常に関する論文を発表されて以来既に 4 年を経過した。この間この問題について実に多くの理論的並に実験的研究がなされた。理論に関しては、幾つかの点で解答が与えられたが、全般的に見れば未だ現実の実験事実と対比させうるまで系統的にはなっていないように思う。一方実験では理論と対比しうる精度と信頼性があるかどうか疑問のあるものも決して少なくない。この段階でもう一度今迄の実験と理論をふり返り、整理して今後の発展のためにはどんな実験を行うべきかを討議することは有意義ではなかろうか。

このような趣旨で、主として実験家を対象とした「稀薄合金における s-d 相互作用」研究会が昨年 11 月 18 日から 20 日まで菅原忠氏（物性研）と久米潔氏（都立大理）が世話人となって物性研で開かれた。世話人の依頼によって 5 人の実験家が最近の実験事実をまとめて整理した上解説し、3 人の理論家が実験家向きに理論の現状を解説した。

van den Berg の総合報告 (Progr. in Low Temp. Phys. Vol. IV) 以後の data の集大成として貴重なものと考えられる data 集が予稿集として作られているが、<sup>\*</sup>本誌では予稿集とは相補的なものとして、理論家向きに実験の報告を書いて頂いた。なお研究会の趣旨は実験家中心ということであったため、理論家どうしの討論には十分時間が与えられなかったので、理論家の話については、本誌上での論争を期待して、「まとめ」でふれる以外は割愛しましたので御了承下さい。

編集部 小 川 泰

\* ) 幾分余裕があるそうですから菅原先生宛お問い合わせ下さい。